

THE 16th
TEN ON
OSAKA MUSIC FESTIVAL

MUSIC

ADVENTURE

Great Sound, Good Friendship & Lovely City



音づくり、仲間づくり、街づくり

16th 天満音楽祭

主催 = 天満音楽祭実行委員会 共催 = 一般財団法人大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

入場無料
ライブハウスは
一部1Drink前



2015 10.4 10:00 SUN
OAPタワー
メイン会場

第16回天満音楽祭記念
プライベート
16th
TEN ON
9.13

大阪環状線19駅すべての
発車メロディを生演奏で。

心いばく

文◎栗本智代
大阪ガスエネルギー・
文化研究所主席研究員



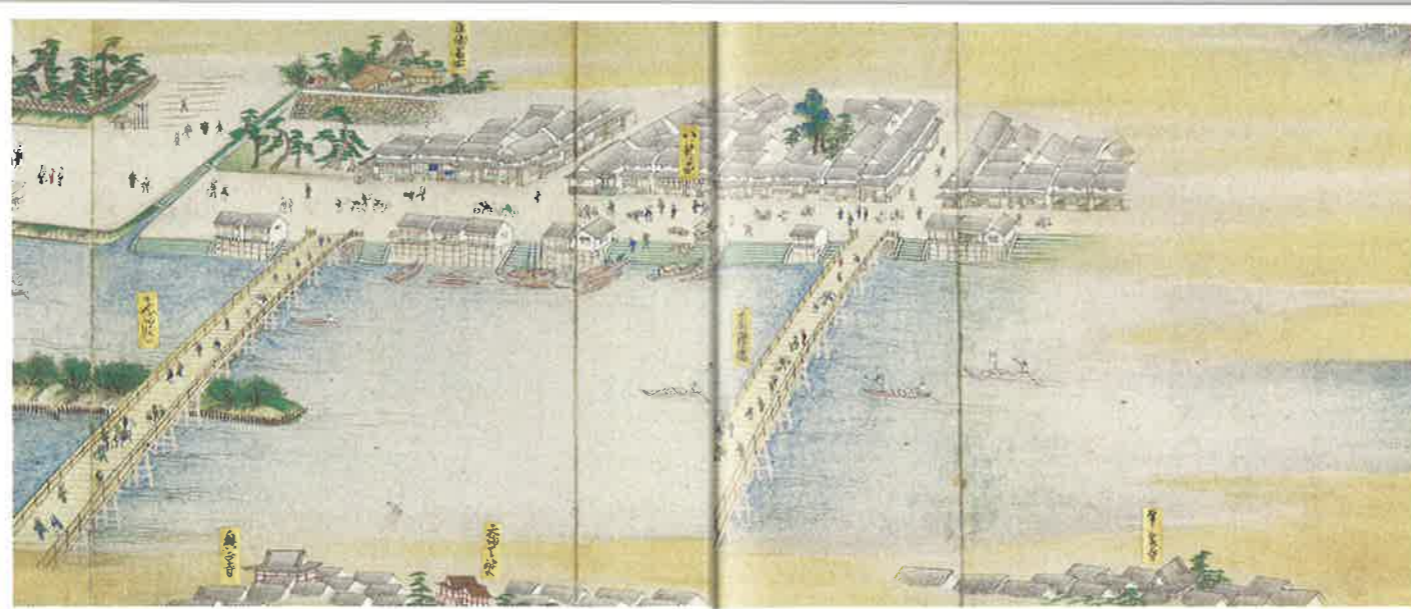
町衆の
町衆による
町衆のための
まち活かしへ

天神祭船人形「浪速勝景帖」五井金水：大阪くらしの今昔館 蔵

♪ 賑わいの歴史は大川から

「天満」は、とても恵まれている。水辺からはじまる賑わいの歴史、多彩な文化を受け継ぎ体現している「お宝」が、まちのあちこちに見え隠れしている。回遊すればするほど、新たな発見がある。

まず、気楽に歩いて楽しいのは、天神橋筋商店街。総延長2.6キロメートルは、日本一長いと言われているが、商店街不振といわれる時期に、アーケードに鳥居風のモニュメントを飾ったり、空き店舗を活用したり、天満ならではの新たな商品を開発するなど、ユニークな工夫を重ねてきたことでも有名



八軒家「よと川の図」：大阪くらしの今昔館 蔵

である。その商店街筋近くに、地元が誇るべき文化情報発信施設が複数立つ。その1つ、天六(天神橋筋六丁目)の「大阪くらしの今昔館」では、大阪の歩みを生活者目線で臨場感をもって体感できる。もう1つ、天二(天神橋筋二丁目)の「天満天神繁昌亭」では、毎日、上方落語を生で聞くことができる。もともと天満宮がこの地域の“へそ”として昔から多くの人で賑わってきたが、裏門近傍も芝居まちとなった時期があり、吉本興業の発祥の地としても語られている。

さらに時代をさかのぼると、仁徳天皇の時代、今の天満にかかる天満橋から天神橋あたりに難波堀江が開削されてから集落が生ま

れ、川を介して物品のやりとりが生じ市場が発展した。江戸期には、大阪三郷の一つとして商家が立ち並んだ。江戸期にはじまり今日まで続く「天神祭」は世界一の水上市祭としてあまりに有名である。船渡御の水都らしいページェントの活気と美しさは毎年元気を与えてくれる。大川は天満のルーツでもあり、ずっと寄り添い支えてくれた大切な伴侶のような存在だともいえる。

♪ 天満のおっちゃんたちを中心に！

そんな天満で、2000年10月15日、新たにうぶ声をあげた手づくりの祭が、「天満音楽祭」である。

きっかけは、天満2丁目で紙・フィルム販売業を営んでいた社長さんが3年間あたためていた構想だった。

「2000年というミレニアムの年に、何か始められへんかなあ。僕も50才やし思い出になるイベントを仕掛けたいなあ。」音楽が好きで、仲間とライブハウスに出演しており、1999年には帝塚山音楽祭にも参加したという。

「帝塚山でもやってるんやから、大阪のど真ん中の地元天満でも、やろやないか！」

もともと小さな祭やフリーマーケット運営の経験があり、同級生の友人たちにも声をかけると、「文化を肌で感じる機会なんてなかなかないから、ええんちゃう？」「フォークとかジャズとか、気楽に楽しめる機会が欲しかったんや」と賛同を得て、自称「天満のおっちゃんたち」を中心に実行委員会を立ち上げたのが始まりである。

「音づくり、仲間づくり、街づくり」をコンセプトに、無理な予算は組まずに、手作りで進めてきたのが継続の鍵であろう。回を重ねるたびに協力者が増え認知度が上がっている。初回は6会場での開催だったが、15回目の昨年は34会場へ、出演バンド数は、初回の58から昨年360へと、こんなに成長するとは、当初は思いもよらなかっただろう。

1年1年、試行錯誤を積み上げたであろう苦労談を、ぜひ、おっちゃんたちにじっくり聞いてみたいものである。



祝 第16回

天満音楽祭

お買い物は、
天神橋筋商店街へ

天神橋筋商店会

天六～天満駅～扇町
(天六、天五、天四北、四番街)

<http://tenjinbashi.net/>

祝 第16回 天満音楽祭

大淀交通安全協会 会長
北区友会 副理事長

宮坂龍介

中華料理 會元楼

飲み放題・食べ放題 (8名様より)
一品料理10品以上
お一人様2時間まで3,000円
17:00~23:00まで

〒530-0043 大阪市北区天満2-14-7 グリーンハウス天満1F Tel:06-6354-6988

旬のお料理
うまい酒
ご主人の軽妙な
おしゃべりは
おしゃべりな
読んでます
手先まで

全席
なべ物
すし
すし駒

20名の宴会部屋あります

電話 06-6928-6313
大阪市都島区高倉町3丁目 10-25

高倉町3丁目バス停を東へ50m。
チヨット隠れ家の様な存在。
入手が困難な日本酒や焼酎が豊富。

Nails
KUU

ネイルズ KUU は
オフィス街にある小さく静かな
アットホームなサロンです。
無理なオフはせずにお爪診断を
しっかりさせて頂いております。
その方の手元が一番美しく見える
カラーデザインをご提案させて頂きます。

このカタログが読者もしくは、クーポン撮影画像を見せて
くださった方には 2,500円 (OFFあり +800円)

ネイルズ KUU
〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-6 スミヤビル1F TEL.06-6263-8338

♪ 夢は、かなえるためにみる

第6回を終えた頃であろうか、その“天満のおっちゃんたち”がこんな話をしていた。「天満音楽祭を10回以上継続できたら、大阪環状線音楽ライブとして、各駅がライブ会場になるように広げたい。それが夢なんですよ……」。まさか、本当にかなえてしまうとは、驚くとともに、感動した。

昨年の15周年記念イベントで、JR西日本の特別協賛を得て、「ぐるKAN LIVE」と称して、大阪環状線をぐるっと一周250名様貸切で、10バンドが乗り込み、音楽の散歩を実現させたのである。今年は、駅をイベント会場にするという。昨年よりもっと大勢の方に、天満音楽祭のパワーが届くことだろう。さらに、大川の水上を舞台にし、いつもは道頓堀を走っているボートが、音楽祭の今日だけは特別に協力してくれるという。まさに、水の都に浮かぶ劇場。音楽とともにどんな表情を見せるか楽しみである。

川つながり、鉄道つながりで、こんなに周辺地域に波及する音楽祭も珍しいのではないか。地元を、大阪を元気にしたいという気持ちをもつ人たちがつながって仲間入りし、労を惜しまず協力した結果であろう。「天満」という土地に棲む「賑わいの地霊」も味方になっている気がする。20周年まで続いたら、大勢の仲間と何をやろうかと、“天満のおっちゃんたち”は、きっと次なる夢を描いておられるに違いない。



♪ わがまち天満、再発見へ

今、私たちは、日々の生活の中で、心のよりどころを何に求めるのだろう。やりがいのある仕事、愛する家族、友人とのつきあい、勉強、趣味……。一方、自分が暮らしている地域についてはどうだろうか。関心はあるが、とっかかりがない、とい

う声をよく聞く。地域の文化に触れ人と交流し、まちの歩みを楽しく学べる機会や場が、どれだけあるだろう。

祭りは、自分が暮らすまちを見直し、同じまちに住む人々と出会う絶好のきっかけになる。いつも生真面目な顔をして気難しそうな隣のおやじさんが、祭りでは子供のようにキラキ

ラと瞳を輝かせて大活躍している、そんな姿を見ると、何かしら刺激を受けるだろう。住人も含めたわがまちに興味をもち、魅力に気づけば、おのずと誇りも感じるようになり、元気が湧いてくるものである。

天満音楽祭は、まちかどのあらゆる施設や空間が舞台になっている。寺や教会、高等学校や専門学校、公園や駅前・駅中、そして、水上。ライブをめぐりながら、天満人の生活空間を訪ね歩くことになるし、出演者はそのステージが思い出の場所になる。音楽祭初回の2000年に生まれた赤ちゃんは、今はもう思春期を迎えている。子供にとっても、成長していく過程で、毎年の故郷の恒例イベントとして記憶に刻まれていくだろう。

音楽にくわえ、天満の魅力を再発見・発信し、交流できる仕掛けをさらに盛り込めれば、新たな出会いや気付きが倍増し、まちを愉しみ活かそうという町衆がもっと育つだろう。これからも、天満音楽祭とわがまち天満、そして大阪が、ますます笑顔と活気で溢れんことを!

栗本智代 ◎プロフィール
大阪ガスエネルギー文化研究所首席研究員

関西の街の個性や魅力を歴史・文化的側面から探究。まち物語やエピソードを音楽の生演奏と映像を交えてわかりやすく伝える公演「語りベシアター」を展開。著書「カリスマ案内人で行く大阪まち歩き」(創元社)他

革新を重ね磨き上げた、飲み飽きない美味しさ。伝統を守りつづき、さらなる進化を遂げた。「白霧島」を、ご賞味あれ。

霧島酒造株式会社

◎飲酒は20歳から。◎飲酒運転は、法律で禁じられています。◎飲酒は適量を。◎妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

祝 第16回 天満音楽祭

事務用品・オフィス家具 文丘堂 06-6351-5677

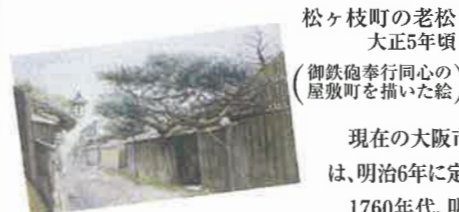
TEN-ON

不動産賃貸 大阪不動産 06-6357-0837

大阪・街角物語～松ヶ枝町～

松乃木神社

ところ：大阪市北区松ヶ枝町2-41
大阪市立扇町総合高校の西向い



現在の大阪市北区松ヶ枝町の町名は、明治6年に定められました。1760年代、明和年間から民家が並び始めたと言われる古い町で、町名の由来となった松の木は、現在の松の木神社より少し北西にありました。高さが67尺、南北には78丈もある老樹で、切ろうとした者には災いがあったそうです。地元の人々から「松乃木さん」と呼ばれ、崇め親しまれていました。

天保8年(1837年)の大塩平八郎の乱でも、明治42年の北の大火・天満焼けと言われる大火事でも町を守り、残っていましたが、大正10年に枯れてしまいました。町内の人々が二代目を植えて祠を築き、松霊の永遠と無災延寿を記念しました。昭和20年の6月1日の空襲で、天満界限はすっかり焼け野原になり二代目の松の木も祠と一緒に焼失してしまいました。

町が復興してきた昭和25年に、当時の町会長宅の焼け残った蔵から白い巳(みい)さん、白蛇が出てきたのをきっかけに、三代目の松の木を植え、新しい神社が築かれました。松乃木神社には巳さんが祀られています。

今の扇町総合高校の運動場のあたりは、昔は「溝の側」と呼ばれていて、多くの路地が入り組んで、小さな家々がぎっしりと建っていました。たくさんの方が住んでいて、夜店が出て人々の楽しい娯楽だったようです。特に毎月21日のお大師さんの日にはたくさんの方が繰り出して歩けないほどの賑わいでした。

町名変更の時に、松乃木神社にちなんだ由緒ある町名は残されませんが、梅ヶ枝町など風情のある町名が消えてしまったことは残念です。

松ヶ枝町の人たちによって代々受け継がれてきた松の木神社のお祭りは、毎年5月17日と11月17日に行われます。昔はこの神社のお祭りでも、あま酒が振る舞われたことを懐かしむ人も少なくなく、11月のお祭りにはあま酒が振る舞われます。歴史ある町と人情の温かさに、ふれあいに来ませんか?

※問い合わせ：事務局TEL.06-6351-5659 中塚

